



2016年9月1日
第591号
 1部10円(組合員は組合費に含む)
 郵便振替00960-7-117274
 Tel (06)4793-0633 Fax(06)4793-0644 E-mail: info@ewaosaka.org http://www.ewaosaka.org

発行 大阪教育合同労働組合
 Education Workers and Amalgamated Union Osaka(EWA)
 発行人 大橋 裕子
 連絡先 大阪市中央区北浜東1-17 8F

講師雇用継続団交 大阪府と新たな不当労働行為を争う! 府労委に救済申立

2015年3月31日の最高裁決定により、組合と府の間で争われた講師雇用継続団交事件は組合側の勝利で終わりました。

この勝利命令により2015年度講師雇用継続団交は再開され、組合ニュース第583号掲載のとおり、組合による各市教委、各学校長への申し入れと団交により、雇用継続を要求した組合員たちの雇用は確定しました。しかし、再開された府・府教委との団交では、任命権者としての雇用責任は示されることはありませんでした。

府・府教委、団交での合意事項について 協定書締結を拒否

旧態依然の府教委までも不誠実団交第1回目の団交(2月29日)の後、組合は年度内の回答を求めて団交再開を要求しました。しかし、年度内に団交は再開されず、4月中旬になってやっと非常勤講師組合員の雇用について組合に連絡が入ったものの、勤務場所や勤務時間については「個人情報保護」を理由に組合へ回答することを拒みました。その後、「個人情報保護」という理由を取

り下げられましたが、組合が要求した団交の場での回答は、既に勤務が始まっていると渋り続けました。

6月1日に再開された第2回団交で、府・府教委はやっと勤務時間・勤務場所について組合に正式回答を行いました。しかし、団交での合意事項について協定書締結を要求した組合に対して、「組合との交渉の中で合意に至って雇用されたというわけではあり

ません」などと発言し、協定書の締結を拒否しました。最高裁まで争って確定させた雇用継続要求は義務的団交事項であることを否定した事実上の団交拒否です。

組合は府労委に救済申立て

組合は、これまでと同様に各市教委・各学校長へ雇用継続を申し入れ、団交をしていくと同時に、府が任命権者として雇用責任を果たすよう、この不当労働行為を許さず8月12日に再び府労委に救済申立てを行いました。

酒井さとえ(書記長)

EWAセミナー2016 若者から聞く学生たちのリアルな労働実態



土屋トカチ監督と司会の酒井書記長

7月30日、エルおおさかにて、一昨年に引き続き「若者の働き方、働かされ方を考える」と題してEWAセミナーが開催されました。大阪全労協第27回定期大会第2部との合同ということもあり、50名以上の参加がありました。

映画「フツの仕事をしたい」鑑賞
 セミナー前半では、土屋ト

カチ監督のデビュー作にして出世作である『フツの仕事をしたい』(英題"A Normal Life, Please")を鑑賞しました。監督曰く「最初に眠くなっても絶対に途中で起こす自信がある」と、その通り、70分の上映時間、参加者は画面から目をそらす暇もなく見入っていました。本作は初公開(2008年)以来8年が経過していますが、古くて新しい(もしくは、古くならない)テーマを扱っており、現在でも各地で上映され続け、最近では「日本の労働映画百選」に選ばれたということです。

学生達の厳しい労働実態

セミナー後半は、土屋監督と関西学生アルバイトユニオ

ンのメンバー2名を迎えてのトークセッションでした。土屋監督からは、個人の体験も踏まえて、この映画が出来るまでのエピソードなどの補足説明があり、労働組合という方法があることを学生時代から知ることの大切さについて指摘されました。

関西学生アルバイトユニオ



関西学生アルバイトユニオンの佐藤さんと堀さんが若者の労働実態を説明

ンからは、いわゆるブラックバイトの実態(責任ある仕事のバイト化、休めない、辞められない、時間外労働)や、学生の意識の問題(「連動自慢」)、そして、その背景としてバイトをせざるを得ない状況としての学費の高騰と貸与型奨学金の問題が指摘されました。

学生は「卒業」していくため労働組合に定着しない、ノウハウが継承されないという課題があるとの報告がありました。しかしそれは、労働組合全体の共通の課題ではないだろうかとも共有されました。最後に土屋監督より、目下製作中の最新作『アリ地獄天国(仮題)』も乞うご期待、とのことでした。

岸本伸一(書記次長)

堺市立学校教職員懲戒指針「一部改正」についての通知文 組合の抗議により、文言を修正

新たな提示の内容は？

6月29日に堺市教委人事部より「堺市立学校教職員の懲戒に関する指針の一部改正について」の通知文が出されました。内容は「個人情報への漏えいに係る懲戒処分の厳罰化」と「性的非違行為・セクシャルハラスメントに係る懲戒処分の標準例の整備」であり、堺市職員の指針の変更にもなっており、教職員についても7月1日付けで改正すること、などが提示されました。

提示日の2日後には実施!?

「自主退職」薦める文言も！
この改正案の内容に関して、支部組合員から疑義が寄せられました。提示日の2日後に実施という乱暴な日程になっているだけでなく、各校園長宛ての「通知」文に、「なお、標準量定の定めにかかわらず、本市においては近年、性的非違行為のあった教職員については、免職又は(そうでない場合であっても)自主退職となっているケースがほとんどである」という、まるで「免

職処分じゃなくても、自主退職しろ」と言わんばかりの文言が記されていたのです。組合は、その文言は撤回すべきであるとし、さる7月8日、堺市教委に申入を行いました。

宛てに、この部分を削除・訂正した文書を通じなおしました。

高島伸(堺支部)

組合による厳しい追及

堺市教委 文言削除
こうした組合の追及に対し、教職員人事部は当初答えを曖昧にしていたが、人事部長のデスクまで直接迫る組合の抗議によって、最終的には人事部長の判断で、各校園長

当面の日程

- 9月9日(金)18時半~ 学働館・関生 ストップ! TPP緊急行動! 発足集会 参加費500円
- 9月19日(月)14時開会 うつぼ公園 9.19おおさか総がかり集会 『改憲許すな! 戦争法を廃止へ!』
- *集会後、難波にむけ御堂筋パレードが行われます。

全国学校労働者交流集会in小倉 ~「チーム学校」で現場は変わるのか?~



8月20日~21日、九州・小倉にて、全国学校労働者交流集会が開かれました。組合からは、猫の目のように変わる大阪の高校入試制度について、高田副執行委員長が報告を行いました。

の教育のおかしさを認識することにもなりました。

権限移譲は全国に広がる?

その他、来年度から実施される政令指定都市の権限移譲についても報告しました。大阪では大阪市、堺市が対象となり、移譲後の勤務・労働条件について交渉が持たれ始めているところです。

集会では、交渉を終えつつある横浜、神戸などから詳細が報告されました。単純に市職の条件と合わせようとする当局と粘り強く交渉を重ね、勤務・労働条件を低下させない取り組みを行う一方、市の財政基盤によって「安上がり」の教育を目指さざるを得ない実情もあります。

文科省が策動する「チーム学校」もまた「学校の教育力を高める」という美辞麗句とは裏腹に、非正規職員の増加や外部委託など、現場をさらに混乱させる恐れが大きいものです。政令指定都市から始まる権限移譲は、中核都市そして全ての都市へと広がっていくことが懸念される中、そんなに簡単なことじゃない!と組合が指摘、抵抗していくことの大切さが共有されました。 酒井さとえ(書記長)

おかしなことに慣れさせられてる

相対評価から絶対評価へと改めるとされた制度は、チャレンジテストの導入により、テストを行わない科目についても、評価がこのテストの点数に縛られるようになりました。現場ではチャレンジテスト対策のための授業に振り回され、結局は点数至上主義という極めて不透明な制度となっています。またアドミッションポリシーは受験者全員が提出するにも関わらず、アドミッションポリシーによる合格者が誰かは不透明です。このような状況について、大阪らしく面白おかしく報告し、全国の仲間たちの関心を多いに引きつけましたが、改めて大阪

文化おちこち (168)

おちこちブックレビュー



昨年LGBTの12~24歳、約500人からのアンケートで、学校で生徒や教師が、LGBTに関する否定的な言葉や暴言、冗談を言うのを聞いたことがあると

回答した人が86%にのぼるといふ朝日新聞の記事をみてドキッとした(「LGBTの子 学校がつらい」2016年5月13日付朝刊)。記事を読み改めて私たちは、LGBTに限らず様々な生徒の『特性』というものを覚えておかなければいけないと感じる。とくに教職員は、これからそのような生徒たちにどう向き合っていくか、正しい知識を身に付けておかなければ、知らず知らずのうちに、本人を傷つけ未来の芽を摘み取ってしまうかもしれない。

LGBTについて、「レズビアン」「ゲイ」「性同一性障害」という言葉と意味は自分自身では少し理解しているつもりだった。しかし、まだよく理解できない

部分も多いので、分りやすい本を図書館で探してみると、『LGBTってなんだろう?』(特定非営利活動法人ReBit編、合同出版、2014年)という本を見つけた。まず、私が想像していた以上に「LGBT」とは複雑なことに衝撃を受けた。普通って何だろう? 男性と女性とは何だろう? と考えさせられた。

「カラダの性(生物学的な性)」「ココロの性(性自認)」「スキになる性(性的指向)」の3つの性の要素の組み合わせで様々な人がいることに気づかされ、当事者の苦悩が体験談として書かれていたのでとても具体的な内容だった。20人に1人くらいの割合でLGBTの人が存在すると考えると、学校のクラスに1人~2人いても自然な状態なこと、そして本人たちは悩んでいた、生きづらいと感じていること。学校での時間は朝から夕方まで1日の大半を占めることになる。教職員は改めて、言動や行動に注意していく必要があるのではないかと思う。

この本は、教職員がLGBT当事者に対して聞くに聞けない疑問に思っている本音が、詳しく書かれているので是非読んでほしいと思う。

眞



「フツーの女の子に戻りたい」と言って芸能界を引退したアイドルがいた。しかし、そのフツーの若者の多くは今、「フ

ツーの仕事がしたい」と訴えている。憲法上の「象徴」をさせられている人も「フツーの老後を過ごしたい」と呟いている(だろう) まさにブラック国家だ